

都市再生整備計画 事後評価シート
安浦地区

平成23年2月

広島県呉市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	広島県		市町村名	呉市		地区名		安浦地区		面積	54ha		
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費		886百万円	国費率	0.397			
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路事業(安浦駅北線、安浦駅構内自由通路、区画道路)、公園事業(区画整理区域内)、地域生活基盤施設(耐震性貯水槽設置)、高質空間形成施設(街路灯設置)										
		提案事業	地域創造支援事業(土地区画整理事業、(仮称)安浦市民センター整備事業、区画整理区域内下水道整備事業)										
	事業名					削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路事業(安浦駅北線、区画道路2路線)					安浦駅北線:現況の橋梁拡幅工事を計画していたが、河川管理者(広島県)との再協議の結果、河川改修が必要となり期間内の施行が困難となったため、区画道路:他の整備手法により整備することとなったため。			事業削除による直接的な影響はない。		
		提案事業	なし										
新たに追加した事業	基幹事業	なし											
	提案事業	なし											
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	-											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	居住人口の増大	人	337	H17	501	H22	353	376	あり なし	土地区画整理事業による整備を行った結果、宅地としての有効活用面積は増加した。また、市営住宅に住んでいる市民からは快適な住環境が整った等の意見が聞かれ常に空室がない状況にある。呉市全体の人口は減少傾向にあるが、区画整理区域内の人口は少しずつではあるが増加傾向にあり、今後、完成した宅地の利活用の促進をさらに図る必要がある。	平成23年10月	
指標2	(仮称)安浦市民センターの施設利用者数	人	24,000	H17	43,200	H23	30,430	48,900	あり なし	主要公共施設を集約し、機能強化したことで、都市機能の充実が図れ、住民ニーズに対応した行政サービスが展開できつつある。また、ユニバーサルデザインに配慮した施設整備を行ったことにより、従来より地域の人々が利用しやすい環境を提供することができ、利用者の増加が見込まれる。	平成23年11月		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	居住環境の満足度	%	52	H17	/	/	58	/	公園や駅前広場の整備によって住民にとって身近に利用できる憩い空間を確保することができ、道路や宅地整備などによって良好な住環境が生まれつつある。また南北で分断されていた市街地の自由通路建設によって交通結節機能が強化され、それに伴い市街地は一体として形成しつつある。これら様々な要素によって住民の居住環境の満足度は上昇傾向にある。	平成23年10月		
その他の数値指標2	安浦駅南北間の移動時間の短縮	分	19	H17	/	/	9	/	JR線路によって南北で分断されていた市街地は、自由通路建設により一体として形成することができた。特に、駅北側地域から駅、及び主要公共施設のある駅南側地域への移動時間は短縮することができ、住民にとって利便性が大きく向上した。	平成23年10月			
4) 定性的な効果発現状況	事業の実施に伴い、地区の住環境の変化を地域住民が感じ始めており、徐々に期待感が向上していると判断できる。住民と行政が意見を交換し合うワークショップといった住民参加プロセスを取り入れたことで、地域住民のまちづくりに対する意欲が向上しつつあり、今後のまちづくり活動に関わるきっかけとなった。参加した住民にとっては、自分たちの意見を反映した施設が実現することで、施設に対する愛着が高まるケースが多く、日常の維持管理の充実や、施設でのイベント開催など、地域の財産として捉える考え方が広がっている。												
5) 実施過程の評価	実施内容												
	実施状況												
	今後の対応方針等												
	モニタリング	交付期間中(中間期)においてモニタリングを実施した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた			最終年度において目標値の達成が困難な指標について、目標値の変更案等を公表し、意見聴取した。有識者からの意見聴取により、その妥当性を担保し、平成22年3月に実施した都市再生整備計画変更に反映することができた。今後においても適宜行うよう考えている。				
	住民参加プロセス	安浦駅北土地区画整理事業区域内の公園の上物整備については、ワークショップにより地域住民と整備方針を協議した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた			事業について住民と計4回協議し、理解を深めていただくともに円滑な事業進捗につながった。今後も、情報を提供し、地域住民の意見を伺う場を設ける。				
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
持続的なまちづくり体制の構築	(区画整理区域内施設)				都市再生整備計画に記載し、実施できた			土地区画整理事業完了後、街路灯については地元自治会へ、公園については地元団体へ維持管理を委ねる予定。					
	・街路灯については、維持管理を地元自治会に委ねる予定である。 ・公園については、維持管理を地元団体に委ねる予定である。				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			・地元自治会や地元団体、地域住民と連携しながら、今後も継続し、協力を得たいと考えている。					
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

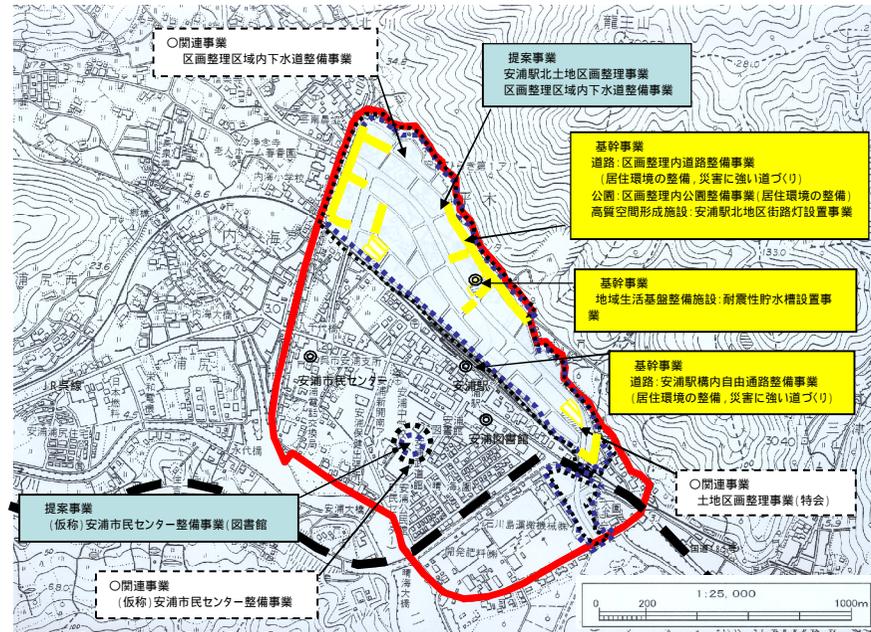
様式2 - 2 地区の概要

安浦地区(広島県呉市)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:住宅・住環境の改善と公共施設の整備による市東部玄関口の拠点地域の創出 目標1 土地区画整理事業により、良好な居住環境の形成を推進し、人口の定着・増大を図る。 目標2 公共施設の再配置や地域の分解解消等により、公共施設の利便性の向上を図る。	居住人口の増大	単位:人	337 H17	501 H22	376 H22
	(仮称)安浦市民センターの施設利用者数	単位:人	24,000 H17	43,200 H23	48,900 H22
	居住環境の満足度	単位:%	52 H17	-	58 H22
	安浦駅南北間の移動時間の短縮	単位:分	19 H17	-	9 H22



安浦市民センター整備事業(H22.8撮影)



安浦駅北土地区画整理事業(H22.9撮影)



安浦駅自由通路整備事業(H22.8撮影)

まちの課題の変化	<p>区画整理区域内は宅地造成や道路整備、憩いの場創出などによって居住環境の整備を推進することができており、課題解消に向け一定の成果を上げている。また、区域内の居住人口は下げ止まっており徐々にではあるが宅地利用率とともに増加傾向にある。しかしながら、市民には区画整理区域内の土地利用に対する認識がまだ弱く、地域活性化や市東部の拠点形成を進めるには更なる利用促進を図る必要がある。南北のアクセス道である安浦駅構内自由通路の建設により、交通結節機能が強化されるとともに、分断していた市街地を一体として形成することができつつある。主要公共施設を集約し機能更新したことにより、都市機能の充実を図ることができ、住民ニーズに対応することができた。</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>新たに造られた良好な居住空間を最大限に生かし、地区すべての人が安全に、そして安心して生活できるまちづくりを目指していく。区画整理区域内の宅地の利用促進に向け、今後さらに広報活動の強化に努めていく。安浦駅構内自由通路により交通結節機能が強化されたことで、今後はさらなる交通環境の向上を目指す。また南北間での住民の連携強化も図っていく。主要公共施設である安浦市民センターではさらなる行政サービスの充実だけでなく、地域住民が身近に交流することのできる場としてまちづくりイベントの開催等で利用促進を図っていく。地域に根ざした地元自治会・まちづくり団体・地域住民の活動プロセスの効果を踏まえ、継続的に連携し住民参加の活動を推進していく。</p>